



▲定林寺観音堂

や調度品は失われてしまいました。

うち八位として格付けされた、格式のあるお寺でした。しかし、戦国時代に入る各所で争いが起こり、定林寺も東濃へ侵攻してきた武田軍の放った火によって、創建当時の建物

泉町定林寺には、かつて泉町大富に館を構えていた土岐頼貞が高峰(たかね)日(ひ)というお坊さんを迎えて創建した、瑞雲山定林寺というお寺がありました。史料によると、今から700年前の鎌倉時代後期、正和2年(1313年)に頼貞の父光定の33回忌の法要を行ったとされ、創建はそれ以前だと考えられます。室町時代には地方の大寺院の一つとして、十刹の

『瑞雲山定林寺』

ときをつなぐもの

文化財の紹介



▲お堂の裏にはたくさんの石仏が並んでいます

問い合わせ 文化振興課(内線556)

定林寺の痕跡を伝える数少ないものの一つに、長野県飯田市の開善寺に伝わる「雲版(うんぱん)」があります。雲版とは人々を呼び集める為に使われた仏具で、武田軍が侵攻した際に戦利品として持ち帰ったものだと考えられます。表には「応永丙申 六月一日 定林寺」と刻銘があり、このことから1416年頃には定林寺寺院内に取り付けられていたことが分かります。また、市内に残る頼貞の位牌には「定林寺殿」という戒名が記されています。この位牌については、いずれご紹介したいと思えます。このように瑞雲山定林寺の面影を伝えるものは多くはありませんが、由緒ある定林寺の名前は地名として残っており、今も人々に親しまれています。

プラザイベントガイド

文化プラザ ☎5711

第33回土岐市文化団体連盟祭【ステージ部門】

4月28日(土) 午後0時30分開演  
 三味線・民謡(三味線秀しず会)、フラダンス(ハラウ フラ カレイ キリカ ブーゲンビリア)、ハーモニカ(土岐市ハーモニカ同好会)、箏曲(新箏曲みどりね会、箏曲寿会)、民謡(豊岐結会、こぶしの会、ちひろ会、豊岐千会)、和太鼓(美濃天地飛炎太鼓)、吟剣詩舞(土岐市吟剣詩舞連合会)、馬子唄(土岐市中馬々子唄保存会)



4月29日(日) 午後0時30分開演  
 和太鼓(土岐津炎太鼓、鼓衆狸座)、尺八(土岐尺八愛好会)、三味線・民謡(竹山流津軽三味線幸栄会)、フラダンス(ハラウ フラ オ ポハイアヌヘア)、日舞・民謡(川崎瀧英鶴会)、新日舞(千曲翠匠会)、民謡(豊岐瑛会)、長唄(長唄和可葉会)、日舞(紅朱会、紅翠会)、箏曲(箏曲絃友会)、きもの着付(貴装きもの愛好会)、児童舞踊(舞踊ゆきこま会)

4月30日(月・祝) 午後2時開演  
 ピアノデュオ(コンセール泉)、合唱(Heartfulコーラス、はなの木合唱団、土岐市民合唱団、土岐少年少女合唱団、泉が丘混声合唱団、コール・アミ)、ハーモニカ(とうせいハーモニカクラブ)